

自薦句

平成三十一年四月〜令和二年三月の代表作を紹介します。

竹寺の竹の艶めく竹の春	廣崎 龍哉
昼灯す茶屋の燈籠鳥雲に	池田 佳子
緑蔭に白き帽子の佇めり	率川 清昭
学び舎の後の公園桜の実	石崎 玄舟
木づくりの大栈橋や風涼し	大野 耕一
鰻洗ふ若き左官や息白し	大場 繁好
池の面に穂先の触るる雪柳	各務 清
叱られて目深に被る冬帽子	柏瀬やすし
悪餓鬼の掌にゐる冬の蠅	島村 忠男
手のひらに稲穂の重さはかりけり	清水 豊春
檻に臥すライオンの目や秋の雲	杉村 良月
片頬を染めて観音冬菫	高橋 尤子
教会のパイプオルガン秋澄めり	角田のぼる
寒風や若狭鯉のすだれ干し	角田 夏瑚
阿弥陀釈迦弥勒三像春灯	二山たか志
背を丸めバス待つ列や月氷る	野木未希男
万緑や欠けし石碑の学舎跡	桧垣 邦夫
外つ国人ワアオと叫びし花吹雪	増田かつを
リハビリの効きめぼちぼち梅ひらく	山口 一江
大地震に耐へし島々風光る	山本 杖空
梅雨寒や浮栈橋の錆の跡	山本 達也
若人の破れジーパン夏来る	米木 達男